



新成人おめでとう 1月1日

左から川口大輔、梅木竜二、赤尾鈴香、入口綾乃、鍋内佳奈、谷尾 愛

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959-00072
印刷・(株)才津印刷所

新年によせて

主任司祭 小瀬良明

新年明けましておめでとうございませう。今年は、特に浦頭小教区創立50周年を迎えることになり、よき年になりますように心から祈ります。

去年は、五島列島にある約45の教会堂のうち4つが世界遺産に登録されました。これは、私たちの信仰が世界に認められたことの証となりました。これは、私たちの先祖が大切に守ってきた神さまへの信仰を、現代の私たちが継承して行くことの大切さを強く意識させるものとなりました。

私たちの教会も、その使命を受けています。奥浦地区にあって浦頭教会、そして修道院、また福祉施設はその役割を充分果たしていると思われませう。今後もこれらの活動をベースにし、時代のニーズに応えてゆくことができるように共に務めて参りたい

ものです。

長崎教区は教区シノドスを開催し、具体的な活動方針を決定しました。それは、今後の教会の在り方を考えることでした。地域における人口減少に伴い教会信徒の減少。これは明日の教会を考える時、これまでになかった現象で、とても困難な課題となっています。

このことは一つの小教区だけのものではなく、地区教会の在り方の問題ともなります。これまでは小教区(巡回教会も含めて)単位で問題に対処して参ったものが、これからは範囲を広くして事に対処することが求められます。

そういった意味でも、小教区創立50周年は大きな意味を持つものとなることでありませう。私たち一つ一つの活動が、神さまの恵みのもとに新しい時代を創り出す年となるよう祈念致します。

新しい年を迎えて

木口 秀憲



主の御降誕と新年の慶びを申し上げます。

あわせて、いつも小教区行事に御協力いただきまして、ありがとうございます。

さて、昨年は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録が正式に決まり、たくさんの方達が五島を訪れ、教会を巡っておられます。

堂崎教会を持つ我々としては、喜びと同時に、この様々な考え方の旅行者に、何を伝えられるか、何を伝えるべきかを改めて考えてみる機会にしなければなりません、そんな気が致します。

また、本年は私達にとって最大のイベント「浦頭小教区設立50周年」を迎えます。

記念事業として、すでに浦頭教会の下足入堂工事、記念のお祈り作成が終わり、これから神羊館（教室）の空調工事、9月

には、祝賀ミサ、祝賀式、記念誌の発行など「今 語り継ぐ尊い信仰 子へ孫へ」のスローガンのもと、一年間を通して様々な催しを企画して行きたいと考えております。

どうぞ信徒、役員、みなで力を合わせて50周年が、実りの多い一年になりますよう頑張ってくださいませよう。

私たちの新たな決意



年男

入口 庄一



新年明けましておめでとうございませう。今年も宜しくお願ひします。

年男という事で、一言コメントさせて頂きます。

今年は、亥年です。現在、猪の被害は奥浦地区を含めて、大変深刻化している問題の一つであり、心配しているところですが、皆様が丹精込めて育てた農作物を中心に、安心して生活できるように地域の組織と連携を図りながら過ごしていきたいと思ひます。

いつかは、人と動物が共存出来るといいですね。

新年を迎え

年女として

川口 美雪

「年女として何か書いて貰えんかな？」と言われ、文才が無から無理ムリノと断り続けていましたが、あまりにしつこいお願いが続き、一言だけと折れてしまいました。

新年明けましておめでとうございませう。取りたくはない歳を重ね、今年で4回目の年女を迎えました。嬉しくはありませんが。

昨年は色々な事、嬉しい事も悲しい事も、たくさんありました。その度に周りの皆様と笑ったり、泣いたり、助けて頂きながら乗り越え過ごす事が出来ました。ありがとうございます。

新しい年を迎え、色々な事に対する期待、不安がたくさんありますが、自身の持つパワーと明るさで、皆様と一緒に乗り越えて行ければと思ひています。今年も宜しくお願ひ致します。

浦頭教会 土足入堂となる

十一月十八日、初めての土足入堂。玄関先で何度も靴をパタパタさせてゆっくり踏み入れた。ちよっと不思議な気持ちで中に入ってみると、座っている皆さんも何かそわそわしているように見えた。気のせいかな？今回の土足入堂、小教区設立五〇周年を機に、今後の事も考え何か思い切った事ができないかと協議を重ねてきました。

神羊館のホールを皆さんが使えるようにしてはとか、教会の冷暖房はとか、本当にいろいろな案が出されました。しかし、工費が高かったり、設置できても維持費が思っていた以上に多かったりと、なかなか決定できずにいた時、高齢者の方々から靴を脱がずに教会に入れば、玄関で周りの方に迷惑かけないで済むんだけど。という意見があり、また維持費の問題で冷暖房を断念した事もあり、この事

業を進めて行くことにしました。業者に依頼して見積りをいただき、他の事業も含め企画部会で協議し、役員会、評議会でも承認を受けたあと、拠出金等の事もありましたので地区集会を開かせていただき、信徒の皆様にも事業内容の理解と協力をお願いしてきました。

全地区で承認していただき、また、できるだけ早く施工して欲しいとの意見もあり、さっそく青年会にデザインの選定を依頼し、十一月初めから約二週間かけて施工していただきました。信徒の皆様には、堂内の机、イス、タンスなど何度も移動・設置して頂き、ありがとうございます。十一月十七日夕方、最後の移動を終えた後、神父様に祝別していただき、土足入堂の準備を終えました。今、約一ヶ月程過ぎました。確かに、玄関先での出入りもスムーズになり、足元も冷たくありません。本当に良かったと思っています。まだ少し慣れてませんけど。

教会イルミネーション 設置作業

十一月二十五日(日)クリスマス前の教会周辺の除草作業後に、教会イルミネーションの設置作業を「おくら夢のまちづくり協議会」と一緒に実施した。合同のイルミネーション設置作業も今年で四年目となり、テキパキと指示を下さる方、それに合わせてスムーズに設置を進めて下さる方など、皆さんで協力して行った。今回は、浦頭設立五〇周年に向けて青年会を



中心に新たにイルミネーションも追加し、パッケージナップ。作業は昼食を挟んで十四時頃には完了した。設置後の夜には家族連れなど多くの方が訪れ、綺麗に彩られた教会や光のトンネルなどで写真を撮っていた。主の御降誕をお祝いする良い準備ができた。

お詫び

二一七号で半泊教会化粧直しの文章で日付が間違っていました。お詫び致します。

誤 十月二十三日
正 九月二十三日

小瀬良神父様誕生会

十二月九日、夕方五時より羊館にて小瀬良神父様の誕生会を行いました。十二日で七十一歳となられる神父様。来年は年男であり千支の「イノシシ」に例えて、「浦頭に来て一年半、イノシシのように邁進し信徒の皆さんに御迷惑かけた点があったかと思いますが、多少なりとも立ち止まって頑張りたと思います」と挨拶されました。



平和のばらお遊戯会

毎年保育園の行事の中でも、子供達の成長を最も感じる事が出来る大きな物が二つ。一つは運動会、そしてもう一つが十二月八日開催されたクリスマスお遊戯会。父兄の皆様も楽しみな様子で、開幕を今や遅しと待っていました。

最初の舞台挨拶からばら組による聖劇、年長さん達だけに皆しっかりした台詞と演技、流石でした。

次に登場したのは、真っ白な可愛いつぼみ組の天使達。先生のナレーションでも、動きがあったり、泣かなければラッキーとの話でしたが、目の前に座っているお客さん達に、笑顔と愛らしい表情を振り撒き、見ている方も自然と鼻の下が伸びたような笑顔になっていました。私もありました。

それから次から次に現れる、つぼみ組のペンギンやフラダン

サー達、あまりにも可愛い愛想の良さと、時間が経つにつれノリが良くなる園児達に父兄さん達もメロメロな様子でした。

すみれ組、ひまわり組も負けずびころりんの寸劇に見事なエアギターを披露。将来ロックバンド奥浦で全国を飛び回っているかも!?という園長先生のコメントも頂いていました。

ひまわり組は、力強い恐竜ダンスと可愛いメイドのダンス。そして、ジャックと豆の木の寸劇を披露。やっぱりウチの子が最高だと思ったでしょうと言う園長先生のコメント、間違いありません！私も思いました！

ばら組の子供達は、迫力ある剣の舞、優雅な日本舞踊を披露。大人顔負けの舞を見せてくれました。

毎年素晴らしい、思いがけない成長を見せてくれる子供達。先生方のご指導のお陰だと思えます。感謝申し上げます、来年度の成長を楽しみにしたいと思います。



“ありがとう”

次の方々より御芳志を頂きました。ありがとうございます。

倉敷市 鍋内 端枝様

佐世保市 松田 トミ子様

お告げのマリア会

小江原修道院様

長崎大司教館

Sr 浜口 愛子様

千葉市 入口 春男様

牢舎の窄

殉教百五十年祭

十月二十八日、天候にも恵まれ牢舎の窄殉教百五十年祭が開催されました。出港場所の檣ノ浦港には、時間になると多くの方が海上タクシーに乗ろうと列をなし、計五往復程と大忙しの海上輸送となりました。

奈留・上五島からも多くの参列者があり、集合場所の久賀小中学校から三百名以上のロザリオ行列を牢舎の窄まで行いまし



た。パトカー・侍者・司祭に先導された参列者は、記念碑に花を捧げ高見大司教司式のもと、記念ミサが行われました。

百五十年前にこの地で実際に起こった悲劇と信仰の強さ。何年も昔の事と感ずるかどうかは人それぞれですが、先祖と同じ道を通り参列する事ができ、感慨深かったと思います。また、行きも帰りも徒歩で移動された方は、苦しみと共に現在の迫害の無い信仰に、先祖に感謝を捧げることができたのではないのでしょうか。

奥浦修道院に赴任して(Ⅱ)

イエスに倣う

Sr 黒川 杏菜

浦頭教会でいろんな行事に参加させていただき、たくさんの経験をさせていただきました。カテキスタとして子ども達と関わる中で、人との交わりを大切にされたイエス様の姿というのをよく考えるようになりました。

イエス様は聖書の中で、病気の人や罪びとだと周りから思われている人、子どもたちを迎え入れる姿が良く見られます。その人の元へ行き、自ら触れてその人と関わりとうとするイエス様、その人と同じ目線、同じ立場になろうとするイエス様の姿に、私たちがの大きな愛を感じることが出来ます。

私たちと同じになろうと、幼子の姿で誕生したイエス様。子どもの純粋な素直さ、無邪気さを大切にされるイエス様に、私も同じように倣っていかれたらと思います。

お世話になります

Sr 中尾 菊代

昨年春に奥浦修道院へ転任し、浦頭教会にお世話になっております。私は三井楽町の出身です。浦頭教会には小学生の時に下五島地区子ども集いで数回訪れたことがあります。神羊館で作文の発表や絵画の展示があり、たくさんの知らない人たちの中で緊張していたように思います。もう三十年前の話です。

先日、クリスマスミサ後の抽選会で久しぶりに神羊館のホールに入りました。顔だけ知っている方々や、顔も名前も知らない人の中でワイワイして楽しい時間を過ごしました。残念ながら、わたしは数字を呼ばれませんでした。約二十名の仲間たちがいることを力にして、次回のクリスマス会を楽しみにしたいと思います。よろしくお願ひします。

新年会

一月十三日、行事等により例年より一週間程遅れて夕方から神羊館にて、毎年恒例の各自持ち寄りによる新年会を行いました。

今年は、浦頭小教区においては九月に小教区発足五十周年記念式を控え、教区では昭和五十六年教皇ヨハネ・パウロⅡ世訪日以来、三十八年ぶりとなる教皇フランシスコが訪日する意向



を表明されています。

これからも、準備まで色々と思いますが、色々な料理を囲んで神父様、信徒一同協力していくことを再確認した新年会となりました。

健康に気を付けて

今年も宜しく願います。



キリシタン復活物語

12/16

「そしてサンタ・マリアがいた」

神様を信じ頼り、命をかけて生きる。禁教の中で神父はいず、

親が子へと洗礼を授けることで手渡されて七代、一五〇年。

『こんあと、きつとよかことある。今はつらしかばってん、そいば信じて待とうで、なっ!!』そんな時、浦上の天主堂の十字架を目にし、喜びと期待はピークに。「オナジかどうか確かめてくるけん。そしたら、また浦上はみんなオナジになる。」そして『私の心、あなたとオナジ』いままでが報われると同時に、苦しみの始まり、恐れることより神様から愛され、サンタ・マリアが寄り添ってくださることの信頼を強め、手渡されて一五〇年。人は何でも自由にできると思い始め、この先オナジことを支えに、オナジ心で生きていけるのか心配だと結んだが、「人からのものなら、時間がたてば自然に滅びるが、神からのものなら、どんなに人が逆らっても滅びることはない」とその言葉を信じるなら大丈夫だと、先人たちの想いを受けて帰りました。

おたより

島のひかり編集部の皆様、せわしい中での編集作業、ご苦労さまです。人数は減少しても、イエスさまの光は変わららず、広く輝くと信じ、祈りで応援しています。 小江原修道院

秘

跡

《帰天》

アントニオ 鍋内 孝行

十月二十六日 51歳

マリア シスター江口 サヨ

十一月十一日 103歳

お告げのマリア修道会

◎堅信おめでとうございます。

一月二十日 成人

入口 ひろ子 堂崎

木口 智美 福江

●成人者、元日に祝福を受ける

赤尾 鈴香 川口 大輔

入口 綾乃 谷尾 愛

梅木 竜二 鍋内 佳奈

中村長八神父様の 生涯を追って⑦

彼の生涯を通じての、神様の教えを説いていく志の強さと、隣人愛を広めて行こうというひたむきな姿勢については、これまで紙面を通じて書きましたが、彼の魅力はそれにとどまらず、人を引きつけてやまない、気さくさも持ち合わせていました。それを表わすエピソードを二つ程、紹介します。

彼が宣教に行く場所では、大部分喜んで迎えられました。中には、「何しに来た、さっさと帰れ!」と怒鳴る者や師の講演をやじる者もいました。中村神父は、こういった乱暴者にも「お元気ですな!」と柔らかな受け答えをしていたそうで、そんな寛容さを感じ入り、そういう人達も改心していったと言います。彼の宣教の熱心さは、その人柄の素晴らしさもあって、次第に大きな輪を広げていき、受洗者は数千名に達しました。

もう一つのエピソードは、気さくさに加え、日本人らしさも表わしたものです。

巡回の途中、汽車が遅れて宿に着くのが夜遅くなってしまう。泊ろうとした日本人がやっている宿がいっぱい、合部屋という形になります。

それは昭和八年、神父が六十八歳の時です。

神父が部屋に入って来た時、既に寝床に横になっていた日本人男性が上半身、身を起こして挨拶しようとする、それを制止して「どうぞ、そのまま。お休みの所、お邪魔をしてあいすみません。私は中村という者です。今夜は一緒にお願いしますよ。」というが速いか、その長い着物をすつと脱いでしまわれたのです。それは、相手が起き上がったって着物を着換えでもしたら迷惑をかけてしまう、そんな気持ちがありました。ただ、脱いだ姿は六尺ふんどし一本だけ。相手は度肝を抜かれ、ぽかんとしています。…続く…

死者の月 追悼ミサ

十一月二十日の死者の日に、シメオン・アンナ会々員の四月以降に亡くなられた方々のために、追悼ミサが午後五時より行なわれた。

該当者は、ヨハネ・川口涼さん、ラウレンシオ・山本利男さん、ミカエル・大浦喜市さん、マリア・本村ヤエ子さん、マリア・Sr江口サヨさんの五名の遺影を祭壇前に掲示し、ローソクと生花を供えて追悼ミサを行ないました。

この日は、福祉送迎ミサに合わせて行なったため、多くの方々が参加しました。

これは、小瀬良神父様の提案によるもので、今後、毎年続けて行く予定です。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

九十六年から八年間、主任司祭を勤められた橋口朝光神父様が、一月十三日に亡くなられました。

次号に、神父様を偲んで、記事を載せませす。

Xマス抽選会

“神羊館”に
響き渡る
歓声と笑み

ユーモアを交えた名司会者の進行もあり、抽選会は大いに盛り上がった。各委員会等から多くのクリスマスプレゼントの提供もあり、参加者一四〇名程に対し、当りは一二〇程。

司会者の呼び上げる数字に、参加者は一喜一憂。

一人の子供は、だんだん少なくなる賞品に顔をおおったり、“ワツ”と声を上げたり、そのリアクションに笑う者あり。会の明るさは、イエズス様の誕生に花を添えた。



ふるさとだより

浦頭地区で防災訓練

十一月十八日、夢のまちづくり協議会の活動の一環で、防災非難訓練が浦頭地区で行なわれた。避難所は、浦頭教会神羊館とし、十時にサイレンが鳴るから、それに合せて集合するようになったが、十時前には数名の方々が集まり関心の高さを感じた。約八十五名が参加し、講話と救助の方法を勉強し、これからの災害時に役立てられたらいいですね。



クリスマスコンサート

12/1

奥浦混声合唱団 第27回定期演奏会



クリスマス
サンタさんも早くてビックリの十二月一日。教会のイルミネーションは準備はOK。始まれば、それぞれがステキなハーモニーを奏で、木々に輝く光たちも踊っているよう…。お客様も大満足し、帰りはプレゼントを手に光の庭を満喫。今宵は♪『歌よ、ありがとう』を実感しました。

クリスマス

子供室 翁頭山登頂

十二月一日、冬晴れの中、一年生三人を含む、奥小の子供達が四二九mの翁頭山にチャレンジ。子供達の疲労度も考え、中腹の見晴らしの良い所に、第一次キャンプ(!?)を設定。

心配御無用。大人でも険しいと思われる急坂を、子供達は元気に踏破。

美しく映える眼下の景色に、存分な爽快感を味わった。



編集後記

今年も亥年。五島のあらゆる場所に出没し、島民を危険にさらしている。ここ奥浦の地では、捕獲隊など結成し頑張っているが、敵もさるもの、なかなか檻に入ってくれない。

話は変わるが、平成の時代も四月いっぱいまで終りを告げます。平成の時代は、戦争こそないものの、様々な災害が続出しました。地震・台風・水害等が続出し、国民を苦しめました。災いは盗人のようにやって来ると言われるが、本当に実感しています。

今年九月は、小教区五〇周年を迎えますが、編集部も一生懸命頑張っています。宜しくお願います。

- | | |
|-------|-------|
| 竹山 要司 | 木口 重憲 |
| 木口 誠也 | 竹山 巧 |
| 小田 洋市 | 入口 信 |
| 江口 初子 | |